

最初にお読みください

Digidesign プラグイン

ここでは Pro Tools 6.1 システムでプラグインを使用する場合の注意点について記載しています。DigiRack プラグインに関しては、Pro Tools 6.1 の「最初にお読みください」を参照してください。

既知の問題点

ここでは Pro Tools 6.1 システムでプラグインを使用する場合の注意 / 問題点についてと、その解決方法を記載しています。

DINR

DINR LE オーソライゼーション・アップデート

以前の DINR iLok オーソライゼーションは、DINR AudioSuite では機能しません。AudioSuite 版 DINR Broadband Noise Reduction を使用している方は、新しい iLok オーソライゼーションが必要となります。DINR プラグインの登録ユーザーは、アップデートされた DINR LE オーソライゼーションを iLok.com 経由で受け取ります。iLok.com 内にアップデートされた DINR LE オーソライゼーションが必要な場合は、Digidesign カスタマー・サービスまで連絡してください。

複数の Hum Removal-TDM モジュールでの Learn モード

Hum Removal-TDM モジュールは、一度に一つだけが Learn モードに設定できます。複数トラックに同じハム・ノイズ・タイプを学習させたい場合は、そのノイズ範囲を 0.5 秒以上選択した上で Pro Tools をループ再生させながら、複数の Hum Removal モジュール上で順番に Learn モードを実行して行ってください。

複数の BNR-TDM モジュールの中で、最初に実施される First Audio Learn モードは、同じミキサーチャンネルにアサインされた別の BNR モジュールに対して、連続して使用することはできません。First Audio Learn モードは、再生開始とともにトリガーされ、最初の 16 msec を使用してノイズ・シグネチャーを作成します。BNR 内で派生するプロセス・ディレイにより、First Audio Learn モードを使用した 2 番目以降のモジュールは、再生の前の無音部分に対して Learn を実行してしまいます。この場合、次のような方法が対策としてあげられます。:

方法 1: First Audio Learn が有効になる前に再生する

First Audio Learn モードは再生時に実行できます。再生を開始すれば、2 番目以降の BNR モジュールを開き、Learn を実行することができます。対象となるノイズ・セクションを Learn するには、再生を十分に前から開始する必要があります。また Pro Tools をループ・モードにし、分離したノイズ・セクション (0.5 msec 以上である必要があります) を選択して再生時にループする方法もあります。その後、2 番目以降の BNR モジュールを開いて、Learn を実行できます。

方法 2: Last Audio Learn モードを使用する

BNR モジュール内の Last Audio Learn モードを使用します。この使い方は、「Digidesign プラグインガイド」を参照してください。

SoundReplacer

SoundReplacer 波形表示

SoundReplacer では、以前はスクロールバーで選択を行った後に波形表示がウィンドウの内容を更新していましたが、Control キーを押しながらマウスや入力デバイスで波形選択をドラッグすることにより、SoundReplacer の波形更新をリアルタイムで見られるようになりました。Control+Command を押しながら表示波形を連続スクロールすると、微調整できます。

SoundReplacer プラグインとモノオーディオ・ファイル

Sound Replacer を使用時、ソースのモノオーディオ・ファイルは、Mono モード内でファイル表示更新を行っても、アップデイトされません。この表示を更新するには、Sound Replacer を実行し直し、Stereo モード内でモノ波形を更新し、モノへ戻してプロセッシングを行います。

SoundReplacer の スプリット・ステレオ (.L/.R) ファイル対応

SoundReplacer は、スプリット・ステレオ・ファイルを処理したり置き換えたりすることができます。ステレオのオーディオ置き換えを行いたい場合は、そのスプリット・ステレオ・ファイルの .L モノ・サイドを選択すると、自動的にそれに適応した .R サイドのファイルも読み込まれます。この場合、そのステレオ・ファイルに含まれる L 及び .R ともに同じロケーション（ディレクトリ）にある必要があります。

SoundReplacer の AIFF ファイル対応

SoundReplacer は、8-, 16-, 24-bit AIFF オーディオ・ファイル対応となりました。Compressed AIFF ファイルには対応していません。

SoundReplacer のステレオ対応の改善

SoundReplacer のステレオ対応が改善され、ドライ信号の波形表示は（モノ表示でなく）2（ステレオ）トラックの合計として表示されます。

非対応ファイルの置き換えを試みるとクラッシュ (Windows のみ)

SoundReplacer は、非対応のオーディオ・ファイルがプラグイン内にロードされるとクラッシュする可能性があります。対応オーディオ・ファイルに関しては、「Digidesign プラグインガイド」を参照してください。

SoundReplacer でリプレースメント用オーディオ・ファイルが変換できない

[ファイル] > [セッションのコピーを保存] で [Mac/PC の強制互換性] をチェックすると、SoundReplacer のリプレースメント用オーディオ・ファイルは変換されません。このオーディオ・リプレースメント・プリセット・ファイルは、[コピーするアイテム] で [セッションのプラグイン設定フォルダー] を選んでいても変換されません。PC 互換を実行するには、置き換えるオーディオ・ファイル・フォーマットとして .wav ファイルを選択してください。 .wav フォーマットを選んでいない場合は、そのリプレースメント・オーディオ・ファイルを手動で変換する必要があります。

SoundReplacer の Normal モードでスクロールができない (Item #37897)

SoundReplacer の波形表示内でのスクロールは、Normal モードでは動作しません。波形スライダーを動かすことで、連続スクロールを行えます。

その他のプラグイン

このセクションでは、Pro Tools 6.1 使用時のその他のプラグインについて記載しています。

旧バージョンからプラグインを伴ったセッションを Pro Tools 6.1 へ転送する

旧バージョンの Pro Tools で作成したセッションからデータをインポートする際、全ての関連プラグイン設定 (Plug-In Settings) ファイルはインポートされません。この場合、Finder 上でプラグイン設定ファイル (Plug-In Settings) を手動でコピーする必要があります。

TDM と LE システム間のプラグインを伴ったセッション転送

LE と TDM 間でセッション転送を行う場合、プラグイン設定は、そのセッションの Plug-In Settings (プラグイン設定) フォルダ内にコピーされます。

TDM システム上の RTAS プラグイン

TDM システム上で RTAS プラグインを使用する際、DAE-6031 または -9128 エラーが生じる可能性があります。この場合は、[プレイバックエンジン] ダイアログ内で [H/W バッファサイズ] と [CPU 使用限度] の値をそれぞれ増やす事でシステムパフォーマンスを向上させることができます (この詳細については、「Pro Tools リファレンス・ガイド」を参照してください)。遅い CPU を使用する場合は、使用する RTAS プラグイン数を減らす必要があるかもしれません。

▲ ハードウェア・バッファ・サイズを増やすと、スクリーン・リドローや操作反応が遅くなるのに加えて、プラグイン・パラメーター、ミュート・データそしてタイムスタンプされていない MIDI トラックのタイミングの精度等にも影響を与えます。

AudioSuite プロセッシングとサイドチェーンインプット

選択基準がリージョン・リストに設定されていると、プラグイン (例: d3、Compressor、Limiter 等) 内のサイドチェーン・インプットは、AudioSuite プロセス上では効果を発揮しません。

AudioSuite とマルチチャンネルリージョン

異なったフォーマット (例: モノ、ステレオ及びマルチチャンネル・サラウンド等) のリージョンを複数選んでプロセスした場合、実際に実行されるのは、そのプラグインでサポートしているフォーマットのリージョンに対してのみとなります。